

系 統

弱溶剤反応硬化形エポキシ樹脂系シーラー

特 長

- 1) エポキシ樹脂を使用することにより、下地に対する抜群の密着性を実現しました。さらに弱溶剤系のため、既存塗膜を侵したり、リフティングさせる心配がなく、塗替用途に最適です。
- 2) 水性シーラーに比べ浸透性が良好であり、ケイ酸カルシウム板などの脆弱面への密着性に優れています。
- 3) 1液形塗料であり、2液形塗料で問題になる調合ミスや、残塗料の無駄が生じません。
- 4) 弱溶剤形のため、臭気がマイルドであり、ホルムアルデヒド放散等級F☆☆☆☆で環境に優しい塗料です。

塗料性状

色	(淡褐色) 透明
乾燥時間 (23℃)	1.5時間
危険物分類	第四類第二石油類
有機溶剤区分	第三種有機溶剤等
容 姿	1液性
容 量	14kg

適合下地

- コンクリート ● モルタル ● PCパネル ● スレート
- せっこうボード ● 合板 ● 塗替下地 (リシン面、吹付タイル面)
- けい酸カルシウム板 (密度0.8以上) * ● 押出成形セメント板 ● 化粧スレート瓦
- 窯業系サイディングボード * 乾式耐火被覆板などは塗装できません。
- ALCパネル※新設ALCパネル面は、ラフトンフィラー等を塗り付け、平滑にしてください。

適 合
上塗塗料
(主な商品名)

- 合成樹脂エマルジョンペイント (AEPクリーンシリーズ、AEPモダンSi)
- つや有合成樹脂エマルジョンペイント (ユニシリーズ、エコシリーズ、水性セラフレックスシリーズ、ウォールノビア水性シリーズ)
- 薄付け仕上塗材 (スズカリシン、スズカスキン、スズカジュラク)
- 超撥水高耐候形水性つや消し塗料 (ビーズコートシリーズ)
- 可とう形及び防水形薄付け仕上塗材 (ラフトン弾性リシン、ビューレ、セラビューレ)
- 弱溶剤系塗料 (ニューモルコンNEO、アクリルハバン、ワイドシリーズ、弾性ワイドシリーズ、1液ワイドシリーズ、1液ワイドウォールシリーズ、ワイドエポシリーズ)
- 複層仕上塗材 (ラフトンジャンボシリーズ、ラフトンローラーシリーズ)
- 防水形複層仕上塗材 (ラフトン弾性ジャンボシリーズ)
- 厚付け仕上塗材 (ラフトンスタッコ、ラフトン弾性スタッコ)
- 内装用仕上塗材 (ラフトン内部用、ラフトンフレッシュシリーズ)

※塗装時、既存塗膜が塗料用シンナーなどの弱溶剤で溶解する場合は、「ワイドシーラーEPO」+弱溶剤系上塗りの工程でチヂミを生じることがありますので、ご注意ください。また、強溶剤系塗料を上塗りに使用することはできません。

標 準
塗装仕様

塗 料	調 合 (重量比)	標準塗付量 (kg/m ² /回)	塗装間隔 (23℃)
ワイドシーラーEPO	100	0.10~0.17	3時間以上

塗付量は、標準的な数値です。被塗物の形状や、下地の状態・塗装方法・環境などによって増減することがあります。粘度調整が必要な場合は、塗料シンナーを用いて希釈してください。

塗装方法

- はけ塗り ● ローラー塗り ● スプレー塗り ● エアレス塗り

塗替時の
注意事項

- シーラー塗装により、既存塗膜にふくれ・チヂミ現象が発生することがあります。事前に試し塗りで確認してください。ふくれ・チヂミ現象が発生した場合、既存塗膜を完全に除去してください。また、既存塗膜に溶剤が残りますと、ふくれ現象が生じる恐れがありますので、十分に乾燥後上塗りしてください。
- 洋風コンクリート瓦 (モニエル瓦など)、粘土瓦 (いぶし瓦、釉薬瓦など) には、使用しないでください。
- 屋根材の既存塗膜の劣化が著しい場合や素地表面が露出し、ぜい弱な場合は、塗替え塗膜のはく離の原因となる可能性があるため、塗装は避け、屋根材の貼り替えをお奨めします。
- セメント系の屋根材 (化粧スレート瓦) で素地への吸い込みが多い箇所は、下塗りを増し塗りしてください。また、下塗りの乾燥後にガムテープで基材表層からの剥がれがないかを確認し、剥がれがある場合は、表層の剥離層を除去し、下塗りを再塗装してください。
- 化粧スレート瓦などで上下の板の重なり部分にすき間が少ない場合は、塗装前にスペーサー部材 (タスペーサーなど) を挿入し、排水機能を維持してください。塗装後にやむを得ず皮スキなどで縁切りする場合は、塗膜を傷めないように十分注意してください。

塗装上の
注意事項

- 下地は、十分に乾燥させてください。(含水率10%以下、pH10以下)
- 下地のレイタンス、エフロレッセンス、汚れなどは除去し、巣穴、不陸、目違いなどは、予め補修してください。
- 使用前に十分かくはんし、希釈せずに、そのままご使用ください。
- たれ・かすれ・塗り残しなどのないよう均一に塗装してください。
- 塗装器具の洗浄は、ラッカーシンナーの方が容易です。
- スプレーミストや臭い・蒸気などが、居住者・隣家・車両などに、飛散しないように留意し、十分な養生を行ってください。
- シーリング材へ直接塗装すると硬化不良を起こします。また塗膜に割れ、剥がれ、よごれを生じることがあるため、塗装は行わないでください。やむを得ず塗装を行う場合は、必ずシーリング材が十分に硬化していることを確認の上、予めラフトン逆プライマーを塗装してください。(ポリサルファイド系シーリング材の場合は2回塗りしてください。シリコン系及びブチルゴム系シーリング材へは、塗装を避けてください。)